

Conditions of music provision for nursing home residents: A nationwide cross-sectional survey

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2020-09-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00059263

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



博士論文審査結果報告書

報告番号

学籍番号 1529022011

氏名 段 冀州

論文審査員

主査(職名) 中谷 壽男(教授)



副査(職名) 稲垣 美智子(教授)



副査(職名) 加藤 真由美(教授)



論文題名 Conditions of music provision for nursing home residents: A nationwide cross-sectional survey(特別養護老人ホームの入所高齢者への音楽提供の現状:全国横断調査)

論文審査結果

【論文内容の要旨】

音楽療法は認知症状や日常生活動作能力の改善・維持に効果があり、余暇・レクリエーションでの音楽の提供(以下、音楽活動)は高齢者の楽しみと満足感を高められるが、特養での実施状況や課題は明らかになっていない。研究者は、特養を1つのコミュニティとし、コミュニティ音楽療法の概念である良好な人間関係や尊厳を確保することへも注目する必要があると考えた。研究目的は、特養を対象にした全国横断調査を通して、音楽提供の状況、音楽療法、音楽活動とコミュニティ音楽療法の3つの側面における効果に関する現状、課題を職員の認識を通して明らかにすることであった。それらを明らかにすることは、音楽提供の質の担保につながる。G-powerによる算出からサンプルサイズは71と推定された。15%の回収率に基づいて、全国の特養から無作為に抽出した517施設に無記名自記式質問票を郵送した。 χ^2 検定、Fisher正確確率検定、Kruskal-Wallis検定を用いて3群間を比較した。差があった項目はSteel-Dwass検定と残差分析を行なった。金沢大学医学倫理審査委員会(承認番号:723-1)の承認を得て実施した。回収数は96部(18.6%)であった。音楽療法提供施設(療法群)数は30(31.2%)、音楽活動(活動群)は47(49.0%)、19(19.8%)施設は提供していなかった(なし群)。音楽療法士が音楽療法の提供に係わっていた施設は5割であり、音楽活動の提供には全く関わっていなかった。音楽活動の効果である「入所者の幸福感が増加する」において有意差があり($p<0.05$)、音楽提供の2群が90%以上に対して、なし群は70%未満の分布にとどまった。コミュニティ音楽療法の概念である「入所者が職員に対し家庭の感覚をもつ」と「職員が入所者に対して親密感を増加する」において有意差があり($p<0.05$)、共になし群は20-40%の低い分布であった。効果の評価の実施率は10-30%にとどまっていた。

【審査結果の要旨】

本研究は、特養における音楽提供が入所者のニーズ等に応じて適切に提供されていない状態を示唆し、副論においてその改善策を提案した。特養を1つの共同体とし、音楽提供を通して介護される人と介護する人の人間関係および尊厳に着目したことは独創的であった。

公開審査会では質疑応答を概ね適切に答えていた。以上、学位請求者は本論文の論文審査及び最終試験の状況に基づき、博士(保健学)の学位を授与するに値すると評価する。